# 令和５年度　江戸川区立南葛西第二中学校　学校関係者評価　最終評価報告書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学校教育目標 | 国際社会に貢献できる人間の育成を目指して<br>・人権を重んじ自他を敬愛する(礼儀)<br>・自主自律の習慣を身に付け将来を目指して自己実現を図る(自律)<br>・心身を鍛え、個性の発揚を図る(自伸)<br>・所属社会の向上と環境改善を目指して着実に努力する(開拓) | 目指す学校像<br>目指す生徒像<br>目指す教師像 | 自他を大切にし、自分や社会の目標達成のために、互いに高めあえる学校<br>「自分を大切に　人を大切に　今を大切に　未来を大切に」することができる生徒<br>生徒とともに、自己啓発と自己変革に意欲的に取り組み、自ら学び・伸びることができる教職員 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | ＜成果＞<br>○落ち着いた学習環境を整備・維持し、コロナ禍の中にあっても生徒の主体的な活動場面を企画運営できたこと。○いじめや問題行動への早期発見・早期解決に寄与する組織的な指導体制が推進できたこと。○特別支援教育への共通理解のもとに、個別指導が円滑に行われたこと。<br>＜課題＞<br>○各種学力調査におけるC層・D層の割合が引き続き区平均を上回っていること。○学力向上策の一環として、保護者と連携して家庭学習の充実をいっそう推進すること。○登校できない生徒の中長期化の未然防止と早期解消を図るため、学習支援と関係機関との連携体制を一層整備すること。 | | |

| 教育委員会重点課題 | ＜取組項目＞ ・評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 取組 | 自己評価 成果 | 自己評価 成果と課題 | 学校関係者評価 評価 | 学校関係者評価 コメント | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学力の向上 | ＜学力の向上＞<br>・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | ◎「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実効性を高めるため、以下の取組等を実施する。<br>○学校独自の学習コンテスト：年3回(study weekとの連動、ベーシックドリルの活用)<br>○放課後補習教室「放課後学習塾「学力アップへのトライ」：週5回(各回最大18名)<br>○定期考査前質問教室等の補習機会：年間延べ60回 | ・学習コンテストにおける、生徒の「自己目標」達成率80%<br>・放課後補習教室常時参加者60名（定員比67%）<br>出席率：80%<br>・質問教室等参加者：1生徒平均5回以上の参加 | B | C | ○学習コンテストは予定通り実施できた。各種学力調査の平均正答率については、各教科とも都平均・区平均を下回ったが、生徒の各教科への関心については、国平均を上回る項目もあるなど、どの教科においても国平均とはほぼ同水準にある。<br>○放課後学習教室申込者は定員比80%となった。出席率もおおむね良好であったが、曜日によっては参加者が多くなく、行事等によって参加者が無い日も発生したことが課題である。<br>○質問教室は実施したが、常時参加者は特定の生徒にとどまる。 | B | ・本校の生徒の学びに対する意欲や本校での学習への満足感があることがわかる。<br>・習熟が十分ではない生徒の学力保障策は用意されてきているので、保護者と連携して活用をさらに奨めてほしい。<br>・進路指導等と関連付け、生徒の向学心（志望校等を含む）を高めてほしい。 | ○学力向上に向けた取組の効果を高めるため、生徒・保護者に対して機をとらえて意義を伝え、家庭学習の習慣を高める。<br>○自学自習の定着に向け、KGPノート等の成果を校内で共有して、効果的な取り組みにしていく。<br>○放課後補習教室委託業者との調整を通じ、さらに弾力的な運営による出席率向上を図る。<br>○進路指導の充実を図る中で、より高い目標をもって学ぶ意識づけをする。 |
| | ＜読書科の更なる充実＞<br>・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 | ◎調べ学習・探究的な学習等を通じて、自ら学ぶ機会を充実させるために、以下の取組等を実施する。<br>○タブレット端末の利用促進：総合・読書科での利活用の推進<br>○区立図書館との連携及び図書ボランティアとの連携<br>○ビブリオバトルの実施：全学年で実施<br>○朝読書の時間の充実 | ・タブレット端末を活用した生徒成果物を各自2点以上制作<br>・生徒一人あたり貸し出し冊数：前年比10%増<br>・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上<br>・読書課題への提出率：70%以上 | B | B | ○朝読書は各学級とも集中して取り組めている。学校図書館の利用者は限られた人数にとどまった。探究的な学習による成果物は学習展示会等で広く紹介できた。<br>○タブレット端末は、全教科での活用が行えている。また、各種コンクール等の入選者はタブレット端末等を利活用した作品制作を行うことができていた。 | B | ・図書室に生徒の希望する図書の購入等があり、徐々に利用者が増えるのではないか。開架時間が限られていると利用率向上は難しい。<br>・ビブリオバトルが意欲的に行われていることは、今後の読書活動につながる。<br>・タブレット端末の利活用にはルールの指導も伴わないとならない。 | ○学校図書館の利用頻度をあげ、朝読書を含めた機会増による読書量増加を推進する。<br>○タブレット端末を校外学習等も含めて有意義に利用することで、探究的な学習を行う力や情報活用能力を高めるとともに、情報を選別・集約・発信する際のモラルを含めた指導を充実させる。 |
| | | | | | | | | | |
| 体力の向上 | ＜運動意欲や基礎体力の向上＞<br>・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・改善 | ◎心身を鍛え、個性の発揚を図る素地としての個々の体力と健康を定着するため、以下の取組等を実施する。<br>○保健体育科での補強運動：毎時間実施<br>○体力向上週間の実施：学期に1週間<br>○運動部活動の取組の充実 | ・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上<br>・運動部活動所属者における活動への肯定的評価80%以上 | B | B | ○保健体育科の授業内での体力向上・体育的行事は予定通り実施できた。休み時間には校庭に加えて体育館・中庭も開放している。生徒の意欲は高い。<br>○運動部活動は部員の減少が見られ、野球部・サッカー部は3年生の引退とともに休止状態となっている。各部活動は区大会等で一定の成果を収めている。 | B | ・運動が苦手な生徒もいると思うが、健康増進の意味での推進を図ってほしい。<br>・運動会等の行事の実施については熱中症等対策を踏まえて期待する。<br>・運動部活動は、生徒の運動に親しむ機会の確保として頑張ってほしい。都大会に進出した部活動があったことは、生徒への励みともなったと思う。 | ○運動機会の増加につながる運動の場の確保について、引き続き生徒会が主体となって体育館開放等を実施する。<br>○運動部活動の活躍や成果について、機をとらえて紹介し、価値づけをすることで、意欲を喚起し、活動の活性化につなげる。<br>○運動部活動については、外部指導者の確保につとめるとともに、再編成を検討する。 |
| | | | | | | | | | |
| 共生社会の実現に向けた教育の推進 | ＜特別支援教育の推進＞<br>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実<br>・エンカレッジルームの活用促進<br>・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 | ◎「ともに生きるまちを目指す条例」の想いを実現する「共生社会ビジョン」を生徒が意識し、広く共生社会の実現を目指すため、以下の取組等を実施する。<br>○SDGsに関する学習の充実<br>○特別支援教育推進委員会の活性化：週1回<br>○心を落ち着け、学習活動に向き合えるスペースの充実<br>○副籍交流における交流の充実と連携の深化 | ・生徒アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上<br>・保護者アンケートでの認知度：前年度比＋10%<br>・直接交流を学期1回実施 | B | B | ○週1回、特別支援教育推進委員会を実施し、情報共有のもとで具体的な指導方法・指導方針等の共有が図られた。<br>○特別支援教育に関する取組について、保護者アンケートの該当項目では肯定的回答が47.7%、わからないとの回答が39.3%であり、情報提供の在り方が問われる。 | B | ・「利用している」「支援を受けている」生徒と保護者以外には、十分に認知されていない可能性がある。保護者への発信を増やすとよい。<br>・区の施策や副籍交流、学校の取組を個人情報等に配慮して提供していくことが必要である。 | ○特別な支援を要する生徒が一定数いることを念頭に、引き続き保護者との信頼関係を深め、関連機関と連携して、引き続き適切な指導の推進に努める。<br>○学校便り「登り藤」等で特別支援教育の施策や成果、学校の取組に関して、個人情報に配慮して情報提供していく。 |
| | | | | | | | | | |
| 子どもたちの健全育成 | ＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞<br>・不登校対策の実施・充実<br>・教育相談の強化<br>・hyper-QUの活用 | ◎生徒がよりよく生きていくための様々なスキルや思考力・判断力を身に付けるための指導助言を充実させるため、以下の取組等を実施する。<br>○幅広く生徒の情報を共通理解するための、校内生徒連絡会…週1回<br>○いじめ防止対策委員会…週1回<br>○外部との連携に関する情報の共有…月1回<br>○SNSの利用適正化を図る取組の推進：「南二スマホルール」定着 | ・いじめ継続件数…0<br>・登校できない生徒数…前年比50%減<br>・SNSに起因するトラブルの未解決数…0 | B | B | ○いじめ基本方針に基づく取組や登校できない生徒への個別・段階的指導について共通理解をして取り組めており、未然防止と早期解決に努めている。<br>○登校できない生徒については関係諸機関との連携も図り、本人の思いに寄り添って安定した登校再開に向けてスモールステップで取組を進めている。 | A | ・さまざまな場面で、本校生徒は穏やかに生き生きと生活していることは伝わってくる。<br>・いじめやさまざまなトラブルが早期に解決するよう、引き続き尽力してほしい。 | ○引き続き、定期的に実施する生徒指導連絡会等の校内委員会において、個々の生徒の実情に応じて未然防止・早期発見・早期解決に資する具体的な対応策を検討し、組織的な取組を推進する。<br>○特別の教科道徳の授業等を充実させ、自他を尊重し、思いやりのある生徒を育成する。 |
| | | | | | | | | | |
| 地域に広く開かれた学校（園）の実現 | ＜自校（園）の取組の積極的な発信＞<br>・学校（園）ホームページの充実等<br>・学校（園）公開の実施・充実 | ◎生徒に・保護者に・地域に・教職員に魅力ある学校づくりを進めるにあたり、本校の実態（良さ）を知っていただくため、以下の取組等を実施する。<br>○ホームページ等による情報発信の更新を週3回以上実施<br>○学校公開日等、授業参観機会の提供：年4回以上 | ・保護者による学校評価アンケート：満足度80%以上<br>・授業参観機会の参観者、のべ1000人以上 | B | B | ○各質問項目について、保護者アンケートにおいては肯定的評価を得ることができた。しかし、回答率は高くはない。<br>○ホームページの更新・公開については、おおむね計画通りに行うことができている。<br>○学校説明会・授業参観の参観者は限定的であり、通学区域外への本校情報の波及は十分ではない。 | B | ・保護者は一定の評価をしていることはよいことであるが、アンケート回答率の改善は必要である。<br>・土曜授業の減少で、授業参観の機会は減っている。コロナ禍を経た新しい形の情報提供が必要である。 | ○授業参観機会の充実を図るとともに、学校公開に関しての周知方法を検討する。<br>○学校応援団等の支援やチャレンジ・ザ・ドリーム等の協力を受けた成果を広く発信することで、より学校への支援の輪を厚いものとする。 |
| | ＜学校関係者評価の充実＞<br>・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 | ・生徒による授業アンケート、生活アンケート：年2回<br>・保護者による学校評価アンケート：年2回<br>・学校評議員会の定期的な開催および授業参観機会の提供：年3回 | ・全設問において肯定的評価80%以上<br>・保護者アンケート回答率75%以上、その肯定的回答80%以上 | B | B | ○学校公開や各行事におけるアンケートはおおむね肯定的な評価をいただけている。<br>○引き続き保護者アンケートの回答率は30%台にとどまり、不十分であった。 | B | ・地域との関わりが戻りつつあるため、徐々に地域の方からのよい反応が返ってくるものと思われる。<br>・地域や保護者に情報発信は引き続き強化していく必要がある。 | ○電子化を行ったことで想定と異なり回答数が減少している実態を踏まえ、周知の方法を検討するなど改善を図る。 |
| | | | | | | | | | |
| 特色ある教育の展開 | ・「国際社会に貢献できる人間の育成を目指す」「生徒に・保護者に・地域に・教職員に」魅力のある学校として、相互の自己肯定感・自己有用感を醸成するため、広く地域に根差した学校づくりを進める | ・地域行事への参加、地域内での生徒の活動を増やし、本校の魅力を伝え、教育活動への参画意欲を高める。 | ・地域行事への参加・参画：年間6回以上 | B | A | ○地域行事に参加し、地域住民の方に本校の生徒のよさを知っていただく機会は増加した。 | A | ・町会や地域のイベントとの連携の充実は引き続き期待する。 | ○校外での活動機会についての周知を図り、参加できる方法を模索するなどして、地域になくてはならない学校づくりを進める。<br>○PTAと連携しての企画を検討し、ひいては令和8年度の開校40周年につなげる。 |
| | ・「働き方改革」の一層の推進 | ・ライフワークバランスの推進を通じて、定時外在校等時間を縮減できる業務の精選を行う。 | ・定時外在校時間80時間以上を3か月連続する教員0名 | C | C | ○定時外在校時間が100時間を超える教員は年度後半はいないものの、なお80時間超となる教員があった。 | B | ・働きやすい環境づくりとともに、だれもが体調を崩さないように気を付けてほしい。 | ○引き続き、校務の効率化を図るとともに、すすんで協働する環境づくりと業務改善に関する支援を行う。 |